

立春と節分

「2月4日は立春」「立春は節分の次の日ぐらい」なんとなくそんな風に覚えていませんか？

実はこれは間違いなのです。

では、立春とは一体いつなのでしょう？ 節分とは・・・と考えたことがありますか？

今回は立春と節分について調べてみました。

●立春とは？

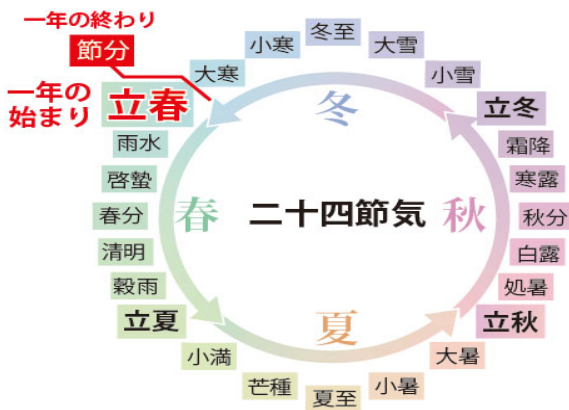
旧暦では1年の始まりは立春から始まると考えられていました。

立春とは季節の変わり目で節切りを指す言葉で暦上での行事です。

その文字通り「春が始まった第一日目」の事をいいます。

これだけ聞くと、「2月4日で問題ないんじゃない？」とも思えますが、日にちが決まっているのではなく、変化するものなのです。

立春というのは一年を24に分けた二十四節気の第一に当たり、この二十四節気は太陽の角度によって決められるのです。(下図)



太陽の角度が315度の時、その日が立春となるので、2月4日になることがほとんどですが、3日にずれる事もあるのです。

先の話ですが、2021年の立春は2月3日になります。

●立春と節分の違いとは？

では、立春の前日に当たる「節分」との違いは何なのでしょう？

立春は冬と春を分ける節目の日。春が始まる日の前日、その節分けをするための日が節分という訳なのです。

そして、先ほど二十四節気の第一といましたが、一番目、つまり一年の始まりという認識となる立春。

その前日に当たる節分は、すなわち大晦日と同じ意味合いになります。

新しい年の始まりに向けて、厄払いをしたい・・・という思いから節分に豆まきをしたり、柊翹を飾ったりしているのです。

●立春はいつからいつまで？

立春は「日」ではなく「期間」であることをご存じですか？

最初に“春が始まった第一日目”と説明しました。

立春とは、**節分の翌日から「雨水」までの期間**を指します。

日にちが固定されている訳ではない上に、その日一日ではなく期間のことを指しているのです。

その雨水が始まるのが2月19日。

つまり、2月4日から2月18日までの期間。この期間が立春ということになるのです。

●ちなみに・・・

旧暦の節分（大晦日）では「けがれ」や「災い」を追い払い、新たな年を迎えるために厄払いも節分に行われていました。

つまり、**立春（元旦）からの新年を災いなしで迎えられるようにと厄払いをしていた**のです。

その名残で今でも厄払いはお正月の初詣と一緒にされる方も多いようです。

立春から1年が始まるとされる旧暦の考えを採用している神社では、節分当日だけでなく正月～節分までに厄払いをすれば良いといわれる方もいます。

いずれにしても、節分までには厄払いは済ませてしまおうという考え方が多いようです。

●最後に・・・

前年の締めくくりの意味のある節分と新しい年の始まりという意味のある立春、こうして意味がわかってくると、「立春」・「節分」一段と大事な気がしてきませんか？

節分には豆をまいて悪いものを追い出し、立春からは新たなスタートを切ることができるといいですね。